

製品名: DP-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10124**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	TFDP2
別名	TFDP2; DP2; Transcription factor Dp-2; E2F dimerization partner 2
遺伝子 ID	7029.0
SwissProt ID	Q14188
免疫原	抗血清はヒト DP-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 64-113

背景

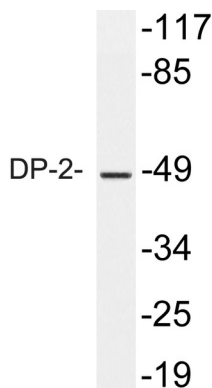
この遺伝子は転写因子 DP ファミリーのメンバーです。コードされているタンパク質は E2F 転写因子とヘテロ二量体を形成し、細胞周期制御遺伝子の転写を活性化します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2010 年

5月],代替産物: 追加のアイソフォームが存在するようです。一部のアイソフォームについては実験的な確認が不足している可能性があります,機能: E2F 依存性転写を刺激できます。E2 認識部位 5'-TTTC[CG]CGC-3'を介して E2F ファミリーのメンバーと協調的に DNA に結合します。この部位は、細胞周期制御や DNA 複製に関与する多くの遺伝子のプロモーター領域に存在します。DP2/E2F 複合体は、G1 期から S 期への細胞周期の進行を制御する機能を果たします。E2F-1/DP 複合体は、細胞増殖とアポトーシスの両方を媒介すると考えられています。PTM: リン酸化されています。類似性: E2F/DP ファミリーに属します。サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素です。E2F ファミリーのメンバーとヘテロ二量体を形成します。この複合体は、低リン酸化網膜芽細胞腫タンパク質 RB1 および E2F 転写活性化ドメインを阻害する関連タンパク質 (RBL1 および RBL2) と相互作用します。細胞周期中、RB は G1 期中期から後期にリン酸化され、DRTF1/E2F 複合体から分離して E2F の転写を活性化します。ウイルス性腫瘍タンパク質、特に E1A、T 抗原、HPV E7 は、RB タンパク質を隔離して活性複合体を放出することができます。GMCL と相互作用します (類似性による)。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素であり、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、TFDP2 から構成される。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制する。S 期には、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると解離する。組織特異性: 心臓および骨格筋に高濃度で存在する。胎盤、腎臓、脳、肺、肝臓にも存在する。様々な転写産物の存在量および量は、組織および細胞株によって大きく異なるようである。、

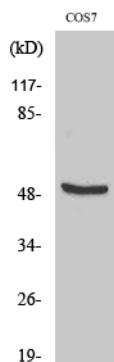
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

画像データ



DP-2 抗体を使用した COS7 細胞の溶解液のウエスタン プロット分析。



DP-2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンプロット分析。

